

日本農業気象学会 2013年全国大会 公開シンポジウム  
「地域農業への地産地消型エネルギー利用技術の展開」

主催：日本農業気象学会

日時：2013年3月28日（木） 15：00－17：00

会場：石川県立大学 第一大講義室（K219）（野々市市末松1丁目308番地）

対象：市民、地方行政関係、農業者、学会員など

趣旨：

バイオマス・ニッポン総合戦略が閣議決定されてから10年が経過し、我が国のエネルギービジョンの転換対策が本格化しています。さらに、2年前の東日本大震災の衝撃がこの転換への要請を加速しました。地域資源を活用した分散型再生可能エネルギーの導入は、脱温暖化と持続的エネルギー供給にとって不可欠の要件です。このようなエネルギー転換時代に際し、従来型エネルギー依存からの脱却に向けての地方の役割はますます大きくなってきました。

北陸の農業気象研究は、支部発足以来、積雪対策が主な対象でしたが、農業者の高齢化による活力低下を抑止するために、農業気象環境の制御・維持への地域資源の有効利用と連動させることが重要課題として浮上してきました。加えて、石川県能登地方は2010年に「世界農業遺産」に選ばれ、地域主体の管理のもと何世紀にもわたる農林産物の生産、持続的な生物資源の利用保全の継続とそれにより育まれた「多様な生物資源」、「優れた里山景観」、「伝えていくべき伝統的な技術」、「里山里海の利用保全の取組や環境教育」など、多様な地域資源が集約された場所として世界的に高く評価されており、今度ますます地域資源の多面的な活用が注目されるものと思われまます。

日本農業気象学会は、稲作を中心とした植物生育環境の制御・管理に関する幅広い貢献をしてまいりましたが、今後ますます重要になる地方におけるエネルギー転換の将来ビジョン策定において、本学会は幅広く貢献する研究資源を有しています。今回のシンポジウムは、農業気象環境の制御・管理に関する幅広い貢献をしてきた日本農業気象学会において、今後ますます重要になる地方におけるエネルギー転換の将来ビジョン策定において、先導的な市民と学会の交流の場として、農業者、企業、研究者から地域資源の農業への有効利用に関する研究事例を紹介し、会場での議論を通じて地方行政・市民と学会の連携を築くことを目的として企画いたしました。地方発信、地域活性化への事例として、関係各位の参考になるところが大きいものと期待しております。